

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：30110

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K03447

研究課題名(和文) 舌痛症患者の就労・生活障害を緩和するための認知行動療法プログラムに関する研究

研究課題名(英文) Research on Cognitive Behavioral Therapy Programs to Alleviate Work and Life Disability in Patients with burning mouth syndrome

研究代表者

松岡 紘史 (MATSUOKA, Hirofumi)

北海道医療大学・歯学部・准教授

研究者番号：50598092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、慢性疼痛患者の中でも痛みへの理解を他者から得にくく、自らの痛みを我慢しながら仕事や家事など日常生活に必要な活動をおこななければならない舌痛症患者を対象に、就労・生活障害と破局的思考が関連するか検討した。痛みに関連した生活上の障害については、痛みの重症度を含めた幅広い変数による影響が認められた。一方で、痛みに限局しない労働障害については、痛みの重症度の影響は認められず、認知的要因や感情的要因の影響が強いことが示唆された。舌痛症で生じている労働障害に対しては、破局的思考および気分状態への介入が重要であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究でとりあげられる舌痛症患者の就労・生活障害は、これまで他の研究で治療対象となることはなかった。これは舌痛症の痛みが口腔に限局され身体的な機能が保たれているとともに、舌痛症が他の慢性疼痛以上に痛みについて理解が得にくく、就労・生活障害を表に出しにくいためである。そのため、就労・生活障害は、舌痛症でこそ、注目すべき側面であるといえる。就労・生活障害をとりあげ、その改善を目指すことは、舌痛症患者が真に困難を感じている領域の問題の解決につながるため、本研究の結果は意義のある研究成果である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we examined whether catastrophic thinking is associated with disability from work and daily living in patients with burning mouth syndrome. Results showed that a wide range of variables, including pain severity, influenced pain-related disability in daily life. On the other hand, no effect of pain severity was observed for work disability not limited to pain, suggesting that cognitive and emotional factors had a strong influence. Interventions for catastrophic thinking and mood state were considered to be important for work disability occurring in burning mouth syndrome.

研究分野：臨床心理学

キーワード：舌痛症 認知行動療法 労働障害

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

口腔領域の慢性疼痛の1つである舌痛症は、更年期前後の女性を中心に有病率が高く、わが国の患者数は300万人～800万人に及ぶと推定される。舌痛症は口腔内で生じる訴えであることから歯科を受診する機会が多いにもかかわらず、従来の歯科的な治療が奏功しない場合も多い。心療内科・精神科を受診する患者も存在するが、心療内科医や精神科医は口腔を専門とせず、患者の症状も口腔内にとどまり他の身体機能が保たれているため、必ずしも積極的な治療が行われているとは言い難い。こうしたことから舌痛症患者に対する有効な治療手段の確立が早急な課題となっている。

舌痛症の治療でもっとも効果研究が進んでいるのは薬物療法である。抗うつ薬を中心とする薬物療法によって多くの患者は改善を経験できるが、完全に症状が消失しない症例も多数存在しており、疾病の治療が十分であるとはいえないのが現状である。我々の研究グループは、薬物療法だけでなく、心理療法の中で痛みの改善に一定のエビデンスがある認知行動療法を用いて、舌痛症に対して最適な治療方法の検討を行っている。

筋骨格系の慢性疼痛においては、痛みのために仕事にいけないなど、活動自体をできなくなる影響の現れ方(アブセンティズム)だけでなく、活動自体はできるものの、本来のパフォーマンスを発揮できないといった影響の現れ方(プレゼンティズム)が重視されるようになってきている。痛みはその性質上、外見からそのつらさを把握することができず、プレゼンティズムが生じやすい。さらに、舌痛症には、口にもものが入っていると症状が楽になるという特徴があり、他の慢性疼痛以上に他者から痛みを理解してもらえず、結果として無理をせざるをえない状況が考えられ、プレゼンティズムは舌痛症にとってより重要な概念であり、舌痛症患者が仕事や家庭生活で経験している障害を改善する方策の構築が重要な課題である。

本研究はこうした就労・生活障害に影響する心理的要因を明らかにし、その心理的要因に基づいた効果的な治療法を構築するものである。

2. 研究の目的

これまでの研究で、舌痛症患者の心理社会的要因が、痛みの重症度や患者の満足度に及ぼす影響を明らかにし、そうした心理社会的要因に対する認知行動療法による治療方法の開発・効果検討を行ってきた(Matsuoka et al., 2017)。こうした検討の中で、慢性疼痛全般で重要性が指摘されている痛みを過度にネガティブに解釈する傾向である痛みに対する破局的思考が痛みの重症度に影響をしていることが明らかになってきている(Matsuoka et al., 2010)。この破局的思考は舌痛症患者の生活障害、プレゼンティズムにも影響していることが考えられるため、本研究では痛みの破局的思考に焦点をあて、就労・生活障害に破局的思考が及ぼす影響を明らかにする

3. 研究の方法

(1) QOL尺度を用いた労働障害に対する破局的思考の影響の検討

対象者

国際頭痛分類第3版に基づき舌痛症と診断された41名を対象とした。

測定指標

Pain Catastrophizing Scale (PCS) および下位尺度(反すう, 無力感, 拡大視), Oral Health Impact Profile (OHIP) の労働状態に関する項目, Brief Pain Inventory (BPI) の痛みの重症度, Stress Response Scale-18 (SRS-18) を用いた調査を行った。

(2) Wfunを用いた労働障害に対する破局的思考の影響の検討

対象者

国際頭痛分類第3版に基づき舌痛症と診断された40名を対象とした。

測定指標

Pain Catastrophizing Scale (PCS) および下位尺度(反すう, 無力感, 拡大視), work functioning impairment scale (Wfun), Brief Pain Inventory (BPI) の痛みの重症度を用いた調査を行った。

(3) 就労状況にある舌痛症患者を対象とした検討

対象者

国際頭痛分類第3版に基づき舌痛症と診断された60名を対象とした。

測定指標

Pain Catastrophizing Scale (PCS), work functioning impairment scale (Wfun), Brief Pain Inventory (BPI) の痛みの重症度, Profile of Mood State-2 短縮版 (POMS: Heuchert 他, 2015) を用いた調査を行った。

4. 研究成果

(1) QOL尺度を用いた労働障害に対する破局的思考の影響の検討

本研究の結果、PCS とその下位尺度は労働状態との間に有意な正の相関がみられた (PCS :

r=0.62, 反すう: r=0.60, 無力感: r=0.57, 拡大視: r=0.50, すべて $p<0.01$)。BPI の痛みの重症度および SRS-18 を統制し, 労働状態に対する重回帰分析を行った結果, PCS は他の要因の影響を統制しても有意に労働状態と関連し ($\beta=0.32, p<0.05$), 破局的な解釈をしているほど労働が制限されていることが示された。反すう, 無力感, 拡大視の PCS の下位尺度を用いて同様の分析を行った結果, 反すうがもっとも労働状態と関連することが明らかになった ($\beta=0.34, p<0.05$)。本研究の結果, 痛みに対する破局的思考, 特に反すうが労働状態と関連しており, 破局的思考を改善することで労働状態が改善される可能性が示唆された。

(2) Wfun を用いた労働障害に対する破局的思考の影響の検討

本研究の結果, PCS とその下位尺度は, PCS および反すうと拡大視においてのみ有意な相関がみられた (PCS: $r=0.38$, 反すう: $r=0.34$, 無力感: $r=0.28$, 拡大視: $r=0.44$)。一方で, 痛みの重症度は Wfun と有意な相関関係はみられなかった。また, 痛みの重症度を統制した偏相関分析を行った場合でも, PCS および反すうと拡大視と Wfun との間でみられた相関関係は維持されていた (PCS: $r=0.39$, 反すう: $r=0.36$, 拡大視: $r=0.43$)。

以上のことから, Wfun で測定される労働障害は, 痛みに対する破局的思考, 特に拡大視と関連がみられることがわかった。労働障害は痛みの重症度と関連がみられなかったことから, 痛みの重症度を改善することなく, 破局的思考を改善させることで, 労働障害の緩和が得られる可能性があることが示唆された。

(3) 就労状況にある舌痛症患者を対象とした検討

就業者を対象に分析を行った結果, 痛みによる生活障害との相関では, 破局的思考と POMS だけでなく, 痛みの重症度との間でも有意な相関関係が認められた。一方で, 労働障害と各変数との相関関係を検討した結果, 痛みの重症度は労働障害とは有意な相関関係ではなかったが, 破局的思考と POMS の各変数は有意な相関関係がみられた。この労働障害との相関は, 痛みによる仕事上の支障度をコントロールした偏相関分析でも確認された。

以上のことから, 痛みに関連した生活上の障害については, 痛みの重症度を含めた幅広い変数による影響が認められた。一方で, 痛みに限局しない労働障害については, 痛みの重症度の影響は認められず, 認知的要因や感情的要因の影響が強いことが示唆された。舌痛症で生じている労働障害に対しては, 破局的思考および気分状態への介入が重要であると考えられる。

これまでの調査研究から破局的思考や感情状態を改善させることによって労働障害を改善させられることが示唆されたが, 実際に破局的思考を改善させるプログラムによって舌痛症患者の労働障害が改善することが観察された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Abiko Y, Paudel D, Matsuoka H, Moriya M, Toyofuku A.	4. 巻 18
2. 論文標題 Psychological Backgrounds of Medically Compromised Patients and Its Implication in Dentistry: A Narrative Review.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International journal of environmental research and public health	6. 最初と最後の頁 8792
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph18168792	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 安彦善裕, 松岡紘史, 植原 治, 吉田光希, 三浦宏子, 森谷 満, 豊福 明	4. 巻 36
2. 論文標題 エビジェネティクスとBurning mouth syndrome Burning mouth syndromeの病態への関与が疑われるエビジェネティクス変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歯科心身医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11268/jjpsd.36.1-2_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡邊 素子, 高尾 千紘, 前田 智寿古, Tu TH Trang, 須賀 隆行, 松岡 紘史, 竹之下 美穂, 安彦 善裕, 豊福 明	4. 巻 36
2. 論文標題 舌痛症患者における味覚と疼痛	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歯科心身医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11268/jjpsd.36.1-2_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tu T. T. H., Toyofuku A., Matsuoka H.	4. 巻 229
2. 論文標題 Coping well	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 British Dental Journal	6. 最初と最後の頁 70~70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41415-020-1931-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 安彦善裕・松岡紘史・千葉逸朗	4. 巻 26
2. 論文標題 歯科診療で遭遇する全身的慢性疾患患者で注意すべき精神・心理学的背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本口腔内科学会	6. 最初と最後の頁 65-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須賀隆行・竹之下美穂・松岡紘史・安彦善裕・豊福明	4. 巻 35
2. 論文標題 残留する反芻思考に対してアミトリプチリンとアリピプラゾールの併用療法が奏功した舌痛症の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歯科心身医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Utsunomiya Masafumi, Matsuoka Hirofumi, Takenoshita Miho, Toyofuku Akira, Miura Hiroko, Abiko Yoshihiro	4. 巻 26
2. 論文標題 The influence of intolerance of uncertainty on the correlation between the severity of symptoms and satisfaction with oral state in patients with burning mouth syndrome	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Oral Investigations	6. 最初と最後の頁 6563 ~ 6568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00784-022-04606-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・Durga Paudel・安彦善裕
2. 発表標題 痛みに対する破局的思考が舌痛症の労働状態に及ぼす影響
3. 学会等名 第62回日本心身医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・Paudel Durga・吉田光希・森谷 満・三浦宏子・豊福 明・安彦善裕
2. 発表標題 Burning mouth syndromeの労働状態にPain Catastrophizing Scaleおよびその下位尺度が及ぼす影響
3. 学会等名 第36回日本歯科心身医学会総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・Paudel Durga・吉田光希・森谷 満・坂野雄二・千葉逸朗・安彦善裕
2. 発表標題 舌痛症の労働状態に痛みに対する破局的思考が及ぼす影響
3. 学会等名 日本心身医学会北海道支部第46回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・Paudel Durga・吉田光希・渡邊 素子・豊福 明・三浦宏子・安彦善裕
2. 発表標題 舌痛症患者の労働状態に気分状態が及ぼす影響
3. 学会等名 第32回日本口腔内科学会・第33回日本臨床航空病理学会・第35回日本航空診断学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・渡邊 素子・Paudel Durga・吉田光希・三浦宏子・豊福 明・安彦善裕
2. 発表標題 痛みに対する破局的思考と舌痛症の労働機能障害との関連性の検討
3. 学会等名 第63回日本心身医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡紘史・宇津宮雅史・Paudel Durga・吉田光希・渡邊 素子・森谷 満・三浦宏子・豊福 明・安彦善裕
2. 発表標題 舌痛症の労働状態および生活障害に森田神経質と痛みに対する破局的思考が及ぼす影響
3. 学会等名 第37回日本歯科心身医学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	豊福 明 (TOYOFUKU Akira) (10258551)	東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授 (12602)	
研究分担者	安彦 善裕 (ABIKO Yoshihiro) (90260819)	北海道医療大学・歯学部・教授 (30110)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------